



申9号 2023年度 賃金引き上げ等に 関する申し入れ 第2回団体交渉①

要求満額回答を
強く求める!

7500件超の組合員・社員の声を会社にぶつけてきました!

●交渉の最後に組合からの主張●

- ・新型コロナウイルスの流行が始まって以降、安全第一、安定輸送の確保、社会的使命を担ってきた。ここは労使の共通認識であり、社員の並々ならぬ努力であった。そこに報いる満額回答を改めて求める。
- ・融合と連携で高まり続ける働き度、物価上昇により厳しさを増す生活実態を受け止めるということで、一致を図れた。
- ・インバウンドの回復も含めて明るい兆しで、足元の動向も3期ぶりの黒字転換も踏まえて、会社にとって大きく好転しているが、働く側は厳しい状況に追いやられている。この改善なくして、通期計画の達成、企業の好循環をどうして実現できるのか。
- ・職場の声を紹介してきたが、仕事での達成感・充実感が感じられない、どうしたら感じられるのかという声もある。
- ・通期の業績予想についても議論があった。職場の声や現実を集約することはそうだが、計画・目標を判断するのは経営側である。達成に向かうのは現場である。
- ・生活を守るのは会社の責務だ。変革の主役は社員一人ひとりだと言うが、生活実態を訴えれば生活は社員一人ひとり違うと言われると、冷徹な経営姿勢であると言わざるを得ない。
- ・ベアと定昇を一緒にする姿勢は改めるべきである。
- ・会社は、この間持続的な成長を果たして原資を社員に還元、好循環を作っているということだが、そもそも私たちの労働力なくして利益を上げることはできない。よって要求満額で応えるべきである。
- ・会社の姿勢を変革するべきだ。
- ・7,500件を超えるJR東日本グループで働く仲間の声が本部に届いている。過去最高の働き度の中で、不平不満の声が後を絶たない。3期ぶりの黒字を達成している裏には、モチベーションの低下、人材流出があり、危機的な状況であることを認識していただきたい。人材定着、今いる社員も大事にすべきである。

■会社の主張■

- ・新型コロナウイルス感染症が始まって以来、安全・安定輸送の確保、品質の高いサービスの提供をし、当社の社会的使命を遂行していただいていることに改めて感謝申し上げる。各種施策への協力にも感謝申し上げます。
- ・現状の業績、事実の数字は一致できるが、それに対する評価は一致していない。黒字に戻ったが通期の予想を踏まえると**健全な危機感を持っていない**といけない。
- ・55歳以上、エルダー社員、各系統と多くの声を頂いた。会社としてもいろんなチャンネルで声をもらっているが、寄せられた声を受け止めたい。
- ・仕事を通じた達成感、充実感、働きがいを通じて社員・家族の幸福につなげるのは一貫している。その中で、苦しい経営判断をしてきた。定期昇給の議論、昇給係数2に関する主張は受け止めるが、会社としては議論で述べた通りである。
- ・期末手当の水準含めて、社員への一定程度の影響を及ぼしたことは認識している。いずれにしても、現状認識で述べたとおり、**長きにわたり総額人件費に大きな影響を与えるので、総合的に勘案して慎重に判断するスタンスは変わらない**。
- ・物価動向も踏まえて、判断する。早期の合意を目指してスピーディーに合意したい。